Rights Smart Finance Plc.
Address : #5A, St.450, Toul Tompong II, Chamkarmon, Phnom Penh
TEL : 093-555683，093-555904
FAX : 023-6870059 Mail : info@risma.biz

ライスマ通信番外編

【タイとカンボジアの紛争状況につきまして】

タイとカンボジアの紛争の経緯と現在の状況について、番外編でレポートさせていただきますが、国境沿いでは大きな被害も出ているところもありますがプノンペンも、タイのバンコクも、国境から離れた場所は至って平静です。

１．紛争の経緯

陸続きの国の宿命として昔から領土を取ったり取られたりということが繰り返されてきていましたが、現在の国境線というのはフランスがカンボジアを植民地にした時に国境をフランスが定めたもので、ただ、１０００キロもの国境すべてを詳細に定めた資料もなくグレーゾーンが多く存在してきています。

これまでは両国とも穏便にしてきていましたが、そのグレーゾーンにあったプレアビヒア寺院がユネスコによって「カンボジア」の世界遺産として２００８年に正式登録された際にタイが猛反発しました。国際法廷でカンボジアが勝訴して落ち着くかに見えましたが、それ以降、両国は国境を挟んで軍を配備して、時々発砲事件となることもありました。

昨年国境沿いでタイの兵士が地雷を踏んで負傷し、その後両国の発砲が偶発的に起こり、政治的なトラブルもあり、ついにはタイ空軍によるカンボジアへの空爆も行われるに至りました。

２．現在の状況

昨年末１２月２７日の３回目の停戦合意に基づき、現在は戦闘が起こっている場所はありません。７月から捕ら

えられていたカンボジアの捕虜１８名も１２月３１日に解放されて無事戻ってきました。

しかしながら、停戦はしたもののタイ側は今回の一連の戦闘で占拠した多くの地域から軍を撤退させずにコンテナやバリケードを築いて、話し合いや国際法廷によらない実効支配を続けていることからカンボジア側は政府も国民も、特に住む場所を追い出された国民は納得いかずに、タイ製品の不買運動は以前にも増して拡大してきています。

３．今後の懸念・問題点

戦闘機なども持たず武力では勝ち目のないカンボジアは国際法廷や ASEAN、あるいは第三国へ調整を願うしかないわけですが、今後も偶発的な交戦が起こる可能性もあり、しばらくは国境通じての移動の制限も続くと思われます。

ただ、空路は普通に機能していて飛行機でタイとカンボジアの間を行き来するのは問題ありません。

タイとカンボジアに限らず世界で多くの紛争があり、日本も無関心ではいられなくなってきています。犠牲になるのは弱い立場の人々です、我々も僅かではありますがカンボジア国内の避難所への支援を行いつつ平和的解決がなされることを願っています。